

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570101127
法人名	社会福祉法人 桐生会
事業所名	桐生園 グループホーム
訪問調査日	2009年 1月 25日
評価確定日	2009年 4月 10日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2570101127
法人名	社会福祉法人 桐生会
事業所名	桐生園 グループホーム
所在地	滋賀県大津市桐生1丁目26番7号 (電話) 077-549-8661

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-55
訪問調査日	平成 21 年 1 月 25 日

【情報提供票より】(平成21年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 11.8

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費: 医療費・理美容費・生活消耗品等は		
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	上記昼食に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草津総合病院、山中医院、みどりのおか歯科、奥村歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人桐生会が運営する高齢者総合福祉施設の一つとして、平成14年4月に開設された、2ユニット定員18名のグループホームである。特別養護老人ホーム桐生園は昭和56年に開設され今年で27年目になる。平成18年にグループホームが地域密着型サービスとなったが、近隣の地域住民にはグループホームも含めた総合福祉施設桐生園という印象が強く、これまで通り「つかず離れずの関係」で良いとする意見が多い。地域との連携が声高に求められる中、地域社会との連携の在り方が模索されている。現在は法人桐生会が、地域が必要としているサービスを提供しながら、無理をせず冷静に、地域とのつながりを作っていくとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では改善課題として、「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「同業者との交流を通じた向上」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」の4項目が挙げられていたが、前の2点では、周辺の地域社会の現状を受け入れ、そのあるべき方向を探りながら、現状で出来る精一杯のことをされている。また同業者との交流では淡海グループホーム協議会に属し、研修に職員が参加しており、重度化や終末期に向けては、きめ細かく家族・医師と話し合いを重ね、納得を得られるように努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットの主任がそれぞれ、ユニット会議の折などに職員の意見を聞いて書き込み、管理者がまとめた。総合評価も出され改善計画も作られており、自己評価することによって、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる姿勢が見える。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 始めはグループホームの運営推進会議を開催していたが、大型施設に併設された立地条件から、近隣の住民からは一つの施設に見えるということで、施設全体の桐生園地域ケアネットワーク運営推進会議となった。平成20年8月の第二回会議では、「求められる福祉施設と地域の連携」と題する龍谷大学の教授の講演の後、質疑応答では数多くの意見が出されていた。地域社会の充実が待たれるが、そのありようとバランスをとりながら柔軟に対応している状況である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見は管理者が聞くことが多い。比較的良く意見が出されている。苦情については、桐生園の苦情対策委員会がありそちらで処理する。意見や要望については、ミーティングで話し合い、運営に反映することもある。家族会設立についても、アンケートなどで家族の意見を聞いているが、賛否両論がある。敬老会やクリスマス会の時には家族が大勢参加するので、その時に意見を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 老人会が年2回実施している地域の清掃作業に職員が参加している。保育園の運動会や地域の文化祭に招かれて参加したり、グループホームの芋ほりには保育園児が参加、桐生園の夏祭りには多くの地域の方が参加される。個人的な友人が利用者を訪ねてくることもある。散歩時にはあいさつを交わし、お花や果物をいただく事もあり、日常生活面ではつながりができてきている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「快適な生活・なじみの関係づくり・日々活動性を高める。」の3点で、これは開設当初のものである。特別養護老人ホーム桐生園と同じ敷地内にあり、近隣の住民には「施設とはつかず離れずの関係を続けていきたい」という意向がある。そんな中、現状を認識しながら、地域に必要なサービスを提供することで地域との連		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念をもう一度考え直してみようという機会を作ったが、職員たちで検討した結果、このままで良いとの結果となり、現在に至っている。日々の生活の中で、理念の実践に向けて取り組んでいる様子が、日々の業務日誌にも記録されていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の地域の清掃作業に職員が参加している。保育園の運動会や地域の文化祭に招かれて参加したり、グループホームの芋ほりには保育園児が参加、桐生園の夏祭りには多くの地域の方が参加される。散歩時にはあいさつを交わし、お花や果物をいただく事もあり、徐々に地域の人とのつながりができてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、各ユニットの主任が中心になって職員の意見をまとめ、管理者が一つにまとめた。改善が必要と思われる課題に優先順位をつけた改善計画書を作って、評価を活かして具体的な改善に取り組もうとする姿勢が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の要望により桐生園全体の「桐生園地域ケアネットワーク運営推進会議」となっている。「求められる福祉施設と地域の連携」と題する龍谷大学の教授の講演の後、質疑応答と言う形で多くの意見が出された。地域に「これまで通りつかず離れずの関係が良い」という意見がある中、地域との連携のあり方を模索している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加している。現在は市担当者から新規利用の問い合わせがある程度との関係であるが、来年度からは介護相談員が入ることになっており、大津市とのつながりができると期待している。	○	桐生園地域ケアネットワーク運営推進委員会を活かしていくために、市担当者との積極的な連携を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、担当者がグループホームでの生活の様子などを、家族に報告している。職員の異動も報告しているが、時期がずれたりするためか、家族のアンケートには担当職員の異動を知らせてほしいという意見があった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・要望・苦情の受付窓口は、重要事項説明書に明記され、玄関に掲示されており、家族にも説明している。家族の意見は管理者が聞くことが多い。桐生園全体の苦情対策委員会があり、苦情があれば、そこで対策を検討する。意見・要望などは、ミーティングで取り上げ運営に反映することもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなるべく避けるようにしているが、職場のマンネリ化を防ぐ意味で、良い場合もあると考えている。異動があった場合は、新職員は初めは何もせずその場において覚えて貰い、1週間ぐらいは日勤の時間帯で入り、利用者となじみの関係を作るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	桐生園全体の内部研修が色々なテーマで毎月あるので、それに参加している。管理者や主任は職員との個別面談などで、参加したい外部の研修内容や意見などを聞き、要望に沿えるように配慮している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指す職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に参加しており、その企画研修に参加している。職員は他の事業所の職員と話すのを楽しみにしており、相談して良い意見をもらったり、自分の介護姿勢を見直したりする良い機会となっている。参加して得たことは、皆で共有できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者は何度か面接をした後、2日間ほどお試し利用をしてもらっている。面接では分からないことが泊まってもらうことでわかることもあるが、お試し利用後、利用を断ったことは無い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小料理屋をしていた方があり、料理をいろいろ教えていただいている。また字が上手な方や絵が上手な方、ちぎり絵が上手な方などその方が得意とされることを教えていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントをしている。毎日の生活の中で気付いたことなどは日誌に細かく記述されており、本人の思いや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その方のこれまでの生活や個別の情報を詳しく得るために、センター方式でアセスメントをしている。得た情報を活かしてきいていない面もあるが、月1回、全員参加のミーティングがユニットごとに開かれ、担当者を中心にみんなが意見を出し合って、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	いろいろな病気を持っている方もあり、医療関係者との連携が必要となってきている。変化があった場合は、家族・医療関係者等と話し合い、現状に即した介護計画を作っている。日々の生活の中での細かな気付きをもとに職員が話し合っ、介護計画を見直すこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診、認知症専門医の受診等につき添っている。また、入院された場合、状況を見極めながら、なるべく早期に退院できるように話している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医療機関に変わった方が多いが、従来のかかりつけ医を受診している方もある。かかりつけ医受診の付き添いは職員がしている。利用年数が長くなるとともに、色々な面でかかりつけ医との連携が必要となってきている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用条件は自立歩行が可能な方となっているが両側から支えられて歩いている方もあった。全員が特別養護老人ホームへ入居申し込みをしている。退去の場合は、医師を交え家族と何回も話し合いを重ねながら可能な限り当グループホームを利用して頂き、納得のいく形で他へ移って頂けるようにきめ細かく配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別のファイルは日中に書き込むこともあるので、日中はユニットに置いているが、夜間は事務所で保管している。職員の言葉かけや態度は一人一人に向けられ、静かで優しくかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の場面では、職員が利用者のペースに添いながら対応していた。ゴミを出しにちょっと離れた特養まで職員と一緒にいたり、日々の買い物もその人に応じた声掛けをして平等に行く機会を作ったり、散歩に出たり、利用者の個々の希望に沿うような支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は利用者も一緒に毎日出かけてユニットごとに献立をたてている。食事は介助が必要な方には職員が横に座り声掛けしながらさりげなく介助していた。食べ終わると食器を重ねて自分で洗い場へ持って行き洗ったり、洗いあがった食器を拭いたりテーブルを拭いたり利用者は思い思いにできることをしておられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は大方の方は午後であるが、午前中に入られる方もある。夜間に入りたいという意見は今は無い。毎日入りたい方は入ることができるが、多くの方は2日に1回である。今は特に入浴を拒否される方はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般については声掛けをして、出来ることをしている。高齢者向けのリハビリ機能維持を兼ねたゲーム機器を導入し、楽しんで使っている。個別に家族と一緒に墓参りに行く方もあり、グループホームから花見や紅葉狩りに行くこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材の買い物に行く時、天気が良い時は利用者と一緒に行く。行きたいと言われる方、声掛けしないと行かない方、それぞれに合わせて、一部の方に偏らないように配慮しながら順番に出かける。ゴミ出しを手伝って貰ったり、近隣の散歩も良く行く。利用者個人の買い物に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。各ユニットの玄関だけはセンサーがなるようになっている。周辺は危険な場所ではないが、職員は利用者のおられるところは注意して把握するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回施設全体の防災避難訓練が行われている。グループホームは夜間想定避難訓練を年1回している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ユニットごとに職員が毎日の献立をたてている。年2回ほど併設施設の管理栄養士にチェックしてもらい、注意することをアドバイスしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には畳のスペースがあり、掘りごたつになっていた。高さが、ちょうど腰掛けられる高さになっている。テレビの前にはソファが置かれ、思い思いに座れるようになっている。大きな日めくり式のカレンダーがかけられていたり、お正月の書き初めが貼ってあったり、建材に木が多く使われておりそれも温かい雰囲気を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お二人のお部屋を見せて頂いたが、二つとも手持ちの家具が持ち込まれ、懐かしい方の写真も飾られており、住んでおられる方の個性豊かな部屋となっていた。「生活の場」と言う感じがする部屋であった。		